

龍馬と学ぼう

日商簿記2級


# 日商簿記2級フリーテキスト講座

<商業簿記13> 財務諸表と帳簿の締切

全12枚



弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

 ニコニコ生放送「そこまで質問されて委員会」もよろしく  
詳細ページは <http://www.kaikei-soft.net/niconico.html>

## 1. 簿記一巡

税理士試験などでは日商簿記2級の修了者向けに、まずは簿記一巡の手続きの学習をする事が多いです。

開始手続<開始記入(大陸式のみ)→再振替仕訳> 期中手続 決算手続<決算整理記入→決算振替記入→帳簿締切→財務諸表>



日商簿記2級の本試験では第2問でしばしば英米式という表現が用いられ受験生を惑わせます。

記帳方法には大陸式と英米式がありますが、日商簿記2級では「英米式」が中心なので大陸式の処理方法を記しているテキストはほとんどありません。気になる方の為に動画で簡単に説明します。このレジュメでは英米式を基本に解説します。

①再振替仕訳 (例: 前期に繰り越した費用を当期の費用に戻す作業)

見越・繰延の逆仕訳を行う事 (経過勘定から費用収益の勘定に振り戻す事)

②期中手続 (商品売買などの一般的な処理)

取引→仕訳帳→総勘定元帳

③決算整理記入 (売上原価の算定・減価償却・引当金の処理など当期の最終損益を明らかにする作業)

見越・繰延などを行い、財務諸表に表示すべき数値に各帳簿残高を修正する作業

④決算振替記入 (整理後 T/B では利益判断できないので、F/S つくるための BOX に収納)

損益振替記入 (収益・費用の各勘定の残高を損益勘定に振替る手続き)

資本振替記入 (損益勘定で計算された当期純損益を繰越利益剰余金に振り替える手続き)

⑤帳簿の締切 (3級論点)

仕訳帳・総勘定元帳・補助簿の締め切りを行う

⑥財務諸表を作成する (決算3勘定を使用し、P/L・B/S・S/Sを作成する)

(後 T/B から科目を外部報告用に変更する)

一応3級でも学んだ内容ですが、理解をしている人は少ないようです。

しっかりと理解する事が、本支店会計等で難問が問われた場合でも対応できます。

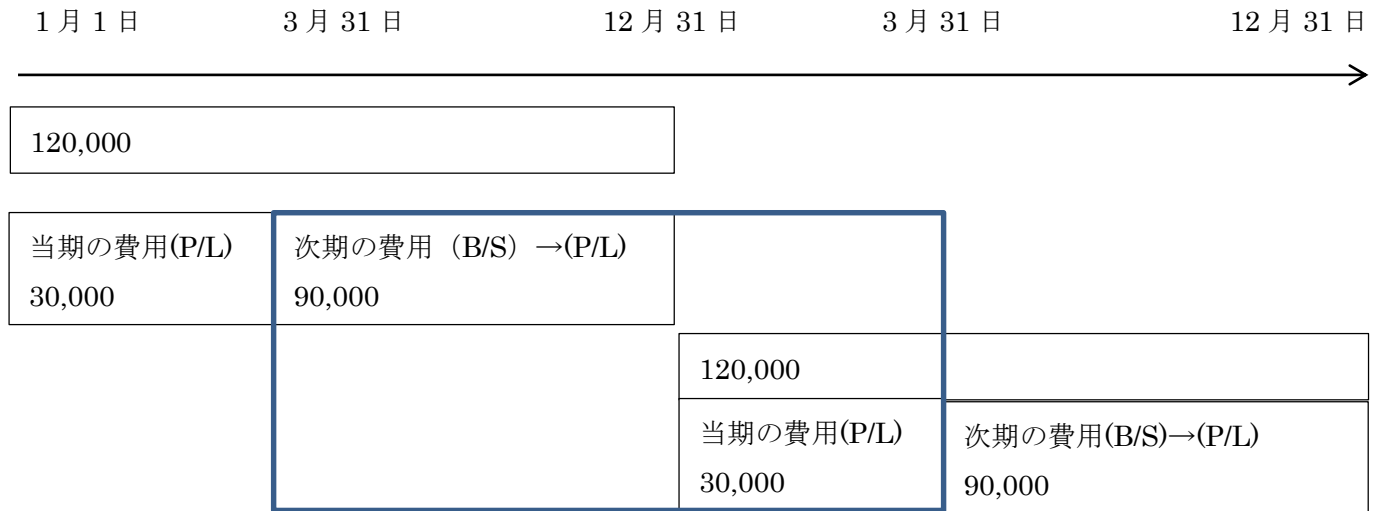
では再振替仕訳からいきましょう

①再振替仕訳

3級で学んだ見越・繰延の概念は理解できていますか？

決算関連の仕訳のキーワードは「当期の損益を明らかにする」という収益費用アプローチ概念です。

<支払家賃>



当期の費用と次期の費用に（経過的に）にわかる

当期の費用に戻す

当期の費用と次期の費用にわかる

見越・繰延は当期の損益を確定させることを意識し、その上で相手科目を考えれば簡単  
翌期はその逆仕訳をきる。「くまのみみ」は最後の手段です！

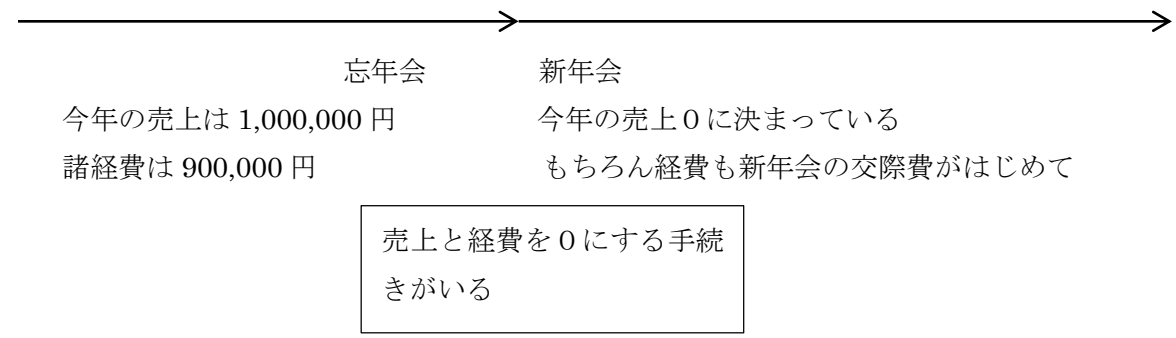
②期中手続は割愛します

③決算整理記入も割愛します

④整理後 T/B から決算振替まで確認しましょう

損益勘定を苦手にする方が多いようです

イメージで考えましょう



帳簿は締めきればいいが、仕訳はどうすれば良いのか？

前 T / B	
諸経費	売上
900,000	1,000,000

➔

仮 T/B	
諸経費	売上
0	0

金額を0にした  
いんじゃない。その為  
には仕訳がいる。



そうなんです。簿記の世界では利益を浮き上がらせるためにも仕訳がいるのです。  
では、0にするためには、どうすれば・・・

売上 1,000,000 / X 1,000,000  
X 900,000 / 諸経費 900,000

仮の科目なのでXでもいいのですがわかりにくい→利益計算用だから損益 a/c を使おう

売上 1,000,000 / 損益 1,000,000  
損益 900,000 / 諸経費 900,000

そうすると売上と経費は消えるが・・・損益が残る

損益

900,000	1,000,000
---------	-----------

この残りが利益をあらわしている  
仮の科目は残念ながら消えてもらう必要があります

利益は？翌年の元手になります。3級では元手は資本金でしたが、2級は株式会社です。  
取締役会や株主総会の決議なしに勝手に資本金はいじれません。  
∴繰越利益剰余金という科目で処理するのです

∴ 損益 100,000 / 繰越利益剰余金 100,000

この科目が翌年の配当の原資になるのです

<決算3勘定>

損益勘定+繰越利益剰余金勘定+繰越試算表をあわせて決算3勘定といいます

損益勘定からP/Lを作成し

繰越利益剰余金勘定を用いてS/S（株主資本等変動計算書）を作成し

繰越試算表からB/Sを作成します

では最後に簡単な例題を

<例題>

①次の決算整理前残高試算表から決算整理仕訳を行い、整理後残高試算表を作成しなさい。なお、当社の決算は3月31日である。

決算整理前残高試算表

現金	1,500,000	買掛金	600,000
繰越商品	200,000	売上	800,000
仕入	600,000	資本金	700,000
諸経費	200,000	繰越利益剰余金	400,000
合計	2,500,000	合計	2,500,000

※期末商品は300,000円だった。当社は仕入 a/c で売上原価を算定している。

借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
仕入	200,000	繰越商品	200,000
繰越商品	300,000	仕入	300,000

決算整理後残高試算表

現金	1,500,000	買掛金	600,000
繰越商品	300,000	売上	800,000
仕入	500,000	資本金	700,000
諸経費	200,000	繰越利益剰余金	400,000
合計	2,500,000	合計	2,500,000

②決算振替仕訳を行い、決算3勘定を完成させなさい

借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
売上	800,000	損益	800,000
損益	700,000	仕入	500,000
		諸経費	200,000
損益	100,000	繰越利益剰余金	100,000

損益			
3/31 仕入	500,000	3/31 売上	800,000
" 諸経費	200,000		
繰越利益 J	100,000		
	<u>800,000</u>		<u>800,000</u>

繰越利益剰余金			
		4/1 前期繰越	400,000
3/31 繰越試算表	500,000	3/31 損益	100,000

繰越試算表		
借方	勘定科目	貸方
1,500,000	現金	
300,000	繰越商品	
	買掛金	600,000
	資本金	700,000
	繰越利益 J	500,000
1,800,000		1,800,000

③P/L・B/S・S/Sを作成しなさい

損益計算書

自 ×1年4月1日 至×2年3月31日

売上高	800,000
売上原価	
期首商品棚卸高	200,000
当期商品仕入高	600,000
合計	800,000
期末商品棚卸高	300,000
売上総利益	300,000
販売管理費	
諸経費	200,000
営業利益	100,000

貸借対照表

×1年3月31日

借方	勘定科目	貸方
1,500,000	現金及び預金	
300,000	商品	
	買掛金	600,000
	資本金	700,000
	繰越利益 J	500,000
1,800,000		1,800,000

株主資本等変動計算書（抜粋）

	資本金	繰越利益剰余金
期首	700,000	400,000
当期変動額		100,000
期末	700,000	500,000

この考え方をベースにお持ちのテキスト等で、決算整理前TBからFS作成を確認して下さい



龍馬ありがとう。何  
だか簿記が楽しくな  
ってきたわ



おりょう！しっか  
り理解するがじゃ  
ぞ

### 3. 損益計算書の仕組みと経費に関して

#### 損益計算書の仕組み

まず財務諸表の種類について整理してみましょう。

会社法上の計算書類	金融商品取引法上の財務諸表
貸借対照表	貸借対照表
損益計算書	損益計算書
株主資本等変動計算書	株主資本等変動計算書
個別注記表	キャッシュフロー計算書
	附属明細表

金融商品取引法：投資者の保護を図るため、企業内容開示制度と呼ばれる情報開示の枠組みを設け、有価証券の発行市場と流通市場のそれぞれについて、開示すべき書類などを定めています。主に上場企業が従うべき法律。

会社法：会社の設立、組織、運営および管理について規定しています。すべての会社が従うべき法律。

弥生検定では3級、2級とも損益計算書ベースの知識がより多く問われています。

これは、弥生会計を使用している事業所は中小企業が中心であり、日常の処理は経費関連の処理が中心である事に起因していると思われます。

そこで、このテキストでも損益計算書、特に経費科目を中心に確認したいと思います。

その前に弥生検定2級では必須知識となる損益計算書の構造について確認しておきましょう。



## 損益計算書

I 売上高	…説明は不要ですね
II 売上原価	…事項で解説
<売上総利益>	…取扱商品の収益力を示す。粗利益とも呼ばれる
III 販売費及び一般管理費	…次ページ以降で解説
<営業利益>	…営業活動の成果である本業の収益力を示す
IV 営業外収益	…受取利息等
V 営業外費用	…支払利息等
<経常利益>	…利息等の財務損益もあわせた、日常的な経営活動の成果を示す
VI 特別利益	…固定資産売却益など
VII 特別損失	…固定資産売却損など
<税引前当期純利益>	…法人税等の計算の元になる利益を示す
法人税、住民税および事業税	
<当期純利益>	…配当原資の最終利益を示す

売上原価に関しては、商業と製造業（メーカー）では商品勘定を使用するのか、製品勘定を使用するのかという違いがあります。

売上原価の計算過程を示しておきます。

＜商業＞		＜製造業＞	
期首商品棚卸高	1,000	期首製品棚卸高	1,000
当期商品仕入高	15,000	当期製品製造原価	15,000
合計	16,000	合計	16,000
期末商品棚卸高	2,000	期末製品棚卸高	2,000
売上原価	14,000	売上原価	14,000



例えば、電卓を販売している会社を例にしましょう。

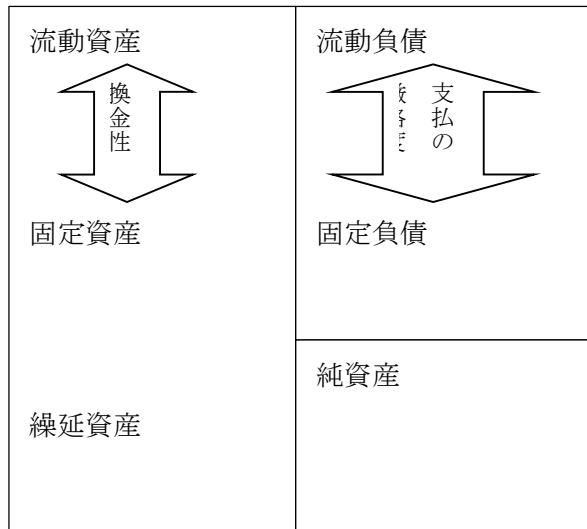
電卓を製造している会社は製造業に該当しますので「製品」という科目を、電卓をメーカーから仕入れている会社では「商品」という勘定科目を使用します。

決算が3月末の会社を例にしてみましょう。上記の例では、4月1日に倉庫に1,000円分の電卓の在庫があり、当期に倉庫に15,000円分の電卓が入荷されました。全部売れていた場合は16,000円が売上原価（売上の元になった金額）になりますが、残念ながら2,000円分の在庫が残っていました。

という事は売上原価は14,000円だったという訳ですね。月次決算および製造業における経理知識に関してはP75以降で詳しく解説します。

<付録 2：ビジネス会計検定 3 級講座レジュメより>

貸借対照表の表示

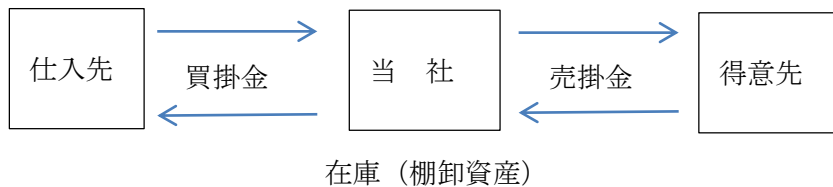


流動：基本的には 1 年以内に決済されるもの

固定：上記以外

流動と固定の区分の方法は

<正常営業循環基準でまず区切る>



<それ以外のものは 1 年基準（ワンイヤールール）>

決算日の翌日から起算して 1 年以内に履行期日の到来する債権および債務については流動資産ないし流動負債とし、それ以外は固定資産ないし固定負債とする基準

## 収益性の分析

### ROI (Return on Investment) 資本利益率

資本を投下（投資）して利益を得るのが投資家の狙い  
ならば、B/Sの指標とP/Lの指標を組み合わせた分析も必要

一般的には会社全体というよりは事業部に対する業績測定のために使用されるケースが多い

### ROA (Return on Assets) 資産利益率

総資産も総資本も同じなので、結果は同じと考えそうですが、ROAは単純に資産全体を分母、ROIの場合は投下資本（運転資本などの流動資産、有・無形固定資産など）を選別するので、一般的には遊休資産(余剰現金を含む)などは含みません。

### ROE (Return on Equity) 自己資本利益率

当期純利益

————— × 100 (%)

株主資本（≡自己資本）

株主が意識するのは、配当原資である当期純利益である事を考えると投資家にとっては大事な指標

## 資本利益率の要素分解（デュボン式）

$$\frac{\text{利益}}{\text{資本}} = \frac{\text{売上高}}{\text{資本}} \times \frac{\text{利益}}{\text{売上高}}$$

左辺に  $\frac{\text{売上高}}{\text{売上高}}$  を乗じて変形すれば良い

$\frac{\text{売上高}}{\text{資本}}$  投資の何倍の売上をあげたか（資本回転率）

$\frac{\text{利益}}{\text{売上高}}$  売上に占める利益の割合（売上高利益率）

例えば同じ資本利益率の会社があった場合を想定して下さい

	総資本	売上	利益
A社	10,000	10,000	4,000
B社	5,000	10,000	2,000

	資本回転率	売上高利益率
A社	1回転	40%
B社	2回転	20%

非常に単純な考え方ですが、A社は客数よりも利益率（ブランド力）で勝負  
B社は利益よりも価格で勝負という事がイメージできます。

このような数値を使用し、標準指標との比較・他者指標との比較・時系列比較を行い投資対象の財務諸表分析を行います。

※自己資本利益率を＜財務レバレッジを加えた3要素分解＞を行う考え方がありますが、難易度が高いため当レジュメには記しておりません。

例題 5-21 から 5-25 まで行ってみよう

例題 5-26 から 5-35 は直接解説させていただきます。